

第121回

健康のススメ

板東 浩

オランダの国際マスターズアイススケート大会 (International Masters' Speed Skating Competition) に出場した。3月下旬、500と1000mを滑走したのは世界初の室内400mリンク [Thialf]。当時、世界記録のラッシュに沸いたリンクである。

本競技会に参加した理由として、将来国際的な活動への準備が挙げられよう。もし、囲碁 (game of go) であれば布石に相当する。今回は日本から6人の侍が挑戦。自己新を目指し、各国の選手や関係者とも親交を深めることができた。

さて、実際にスケート王国・オランダを訪れて、いろいろと学んだ。「さすが、国技に対する解釈が深い」と思うことが。日本でスピードスケートといえば短距離の500mに人気がある。一方、当地では長距離の10000mのレースに国民が熱狂しているのだ。ゆっ

くりした滑走の動きでそれほど魅力的と思えないのに、なぜだろうか？

実は、応援しながら、選手の細かな技術やペース配分など、専門家レベルで冷静に評価していることがわかった。我が国なら、国技のプロ野球で、選手の技術や監督の采配をチェックしているようなものか。なお、大会運営は効率的で4人ずつ滑走した。写真中aは筆者 (Dr.SK8)、bは4カ国語を話す友人の坂本氏 (8man) で、二人でスケートの国際的 (?) 普及活動が続けている。(医学博士、内科医)

